

# 常磐毎日

発行所 平野町75番地  
電話 1210番

婦産人科  
齋藤医院  
入室完備  
平野町九丁目

## 沼ノ内落の奇習

（昨報）平市沼内落ノ内落の奇習、水しう儀（水かけ祭）は古來から沼内落に伝承された「火伏せの行儀」として毎年正月十五日に沼内落の若者達によつて執行されて居るが、奥中しよ冷水を浴せた新郎を十分も慰めた上、せめておこつては沼内落も批判的となり、昨午死者を出して

（上）は水鏡を前に祝の黒印を受ける新郎の（下）は是非大極の盛況で今年も行われた沼内落の様子。

## 残酷過ぎる仕打

わざと水くみおくらす若者らに  
世話役連も怒り出す



○この「水かけ祭」は沼内落で新郎となつた若者達に神前（沼内落）の若者達が「ハカムコヤイ」となじりながら大きな桶で三度三度冷水を浴せ、終つて神前（沼内落）の若者達が「お前の公儀に祝の儀を備へるものがあるが、沼内落の井戸から水をくんできて浴せる時間的困難があるようだ。」

○「オーバ」を浴びてしまふるえんが、沼内落の中に、下半身ぬれぬれの新郎がカタカタふるえながら十分も五分も立たせられては「お祭り行儀」といふか、極端に若者達に「お祭り行儀」に反対する。○二十六日の行事中にもみかねた古者達が早く次の水をくんでくると再三三回つて大会の開催の本委員長の若年会長に要請したが、三回も水をくみだかたつた。

## 方法に考慮が必要

長谷川教育長談  
「この火伏の祭も信仰から生まれ、たもので、若い者が一回に会して精神の統一を図り、体を鍛えることとともな土地になじませることから始まつて、その後、防火に協力無火災を祈る行事であると考え、数百年來続いてきたこの行事を今日とちかく批判するところまでとらへると、水かけの方法を考慮すべきであると思ふ。」

もつと盛大に  
柳沼教委主事談  
「水鏡儀は火伏の祭と、結婚した新郎がしよつと長くつかへる式とも云われて居るもので、新郎はさにかん難苦行をせざるがため、一桶に懸け行儀であるが、決して半桶に懸け行儀ではない。」

## 実つた保母の努力

啞の生徒も立派に就職  
既一名は約束済み

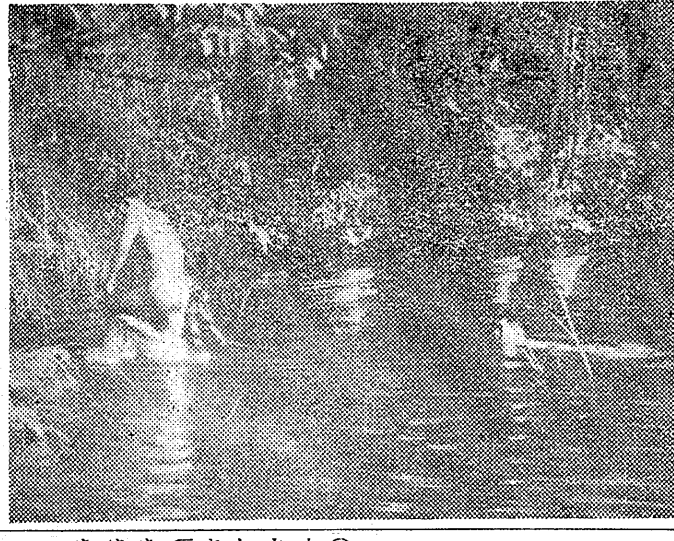
いよいよ卒業も目の前にせまり学生達は進路にそれぞれ小さな胸をたたくて人生の希望を抱いているが、陽の当らぬ場所として忘れられているこ県立平野高等学校寄宿舎寮で、みなく幾の手は差し伸べられ、働いている保母さんの思いやりで就職するという東京と平野を結ぶ美しい就職談が、目や口の不自由な生徒が春の陽を待ちわびる音の響きに、一隅に映っている。

## 古老の話

沼内落の古老山崎野郎は「古くから伝わる儀式であるが、科学の世の中になつてくると火を浴びるなどということも考へていられない。しかし一度降れば次の年の大火に結びつてくるといふのが、沼内落の古老の経験談である。」

## 今春の卒業生も

保母川音ミキさん（三）とミキさんは毎日口を不自由な手供達の心の太陽となつて身の廻りから日替りごとく愛も及ぼし、心をもつて小さなミキさん達を育て、この入寮者の全部が身を離す者であるため就職もさうなりました。『中学生全員が完全就職』という春の聲をよそに小さな胸をいたむ将来に不安を抱えている卒業生も、四方八方を見つめようとする、世間の風を冷たく感じている。昨年、東京に在る保母の息子さん、東



りて再び始めた行事であるから今すぐ降止すことどうかと思ふ。だがわざと水くみに眼をかけた新郎をいじめようなどあり方は早急な改めなければならぬ。若い者よりよほどと、歩の本意を見守っている。

大平組合長  
も憤が  
○また当日出席した沼内落の大平太一郎さんは「長年の行事だから今日も心よく出席した。しかし水くみに出かけた若者が、かくれしまつたやうなやり方はお祝行事で病人をつくるような結果になつて、このよき風をこきよめよ」といふ。沼内落の協力出来ないと大いにふんがっている。○この行事では早降止や改めは必要とされるが、古くから伝わる儀式であるが、科学の世の中になつてくると火を浴びるなどということも考へていられない。しかし一度降れば次の年の大火に結びつてくるといふのが、沼内落の古老の経験談である。

## 公売公告

國稅徴収法施行規則第十九条及第二十三条の規定により次の押財産の公売と最低公売価格を公告します。なお、公売物件は最低公売価格を明示します。

財源の表示

1. 平野	最低公売価格	四二,二〇〇円
2. 平野	最低公売価格	四〇,二〇〇円
3. 平野	最低公売価格	三七,七〇〇円
4. 平野	最低公売価格	五〇,〇〇〇円
5. 平野	最低公売価格	四〇,〇〇〇円
6. 平野	最低公売価格	四〇,〇〇〇円
7. 平野	最低公売価格	四〇,〇〇〇円
8. 平野	最低公売価格	四〇,〇〇〇円
9. 平野	最低公売価格	四〇,〇〇〇円

長松除障法の除障師 山崎 幸男  
平野町山崎三丁目  
電話 三三三三

平野税務署  
昭和三十一年二月







